

視覚障害者支援ボランティアスキップについて

社会福祉法人京都市東山区社会福祉協議会

1. スキップが出来たきっかけ

- ・区社協主催の平成 17 年度の「東山区ボランティア入門講座」

目的；「社会福祉の基礎や地域でのボランティア活動に対する啓発・理解促進を図るため」

「学習」と「体験」がセットの講座。実際に施設や学区社協活動に参加

- ・「平成 17 年度ボランティア入門講座修了生の集い」を開催

平成 18 年度は、修了生の思いを生かして、何らかの活動につながらないかという試行錯誤の時期

- ・具体的に行った内容

区内の福祉団体や施設関係者の協力のもと、毎月 1 回程度集まり話の合いの場を持った。

- ①ボランティア活動について、現状や課題・困りごと等について話を聴く。
- ②ボランティアに関するアンケート集計結果の学習会の実施。

その結果…18 年度専門講座「視覚障害者支援ボランティア養成講座」を開催。

- ・「修了生の集い」での話し合いを通じて、今後の活動を視覚障害の支援活動にすることとし、区社協主催で標記講座を開催した（平成 19 年 1 月；3 回連続講座）。
- ・講座終了後に支援グループの立ち上げに向けて修了生交流会を実施（2 月）。
- ・講師や当事者を招いての意見交換（3 月）。
 - 視覚障害者支援ボランティアグループとして活動を進めることで合意。
 - 平成 19 年 4 月から毎月第 2 火曜日を活動日として取り組み開始。

2. 発足と活動スタイル

- ①名前の由来：平成 19 年 4 月に実施した修了生交流会において

- ・長いこと（18年3月から1年間）足踏みをしていた場所から、ようやく動き出すというイメージ。
- ・軽やかに、活動を展開していきたい。
- ・手をつなぎ、輪になるような感じ。
- ・まわりとの関わりを大切に、一緒に歩んでいきたい。

「スキップ」という名称に決定。

②活動の目的

見えない・見えにくい不自由さの中で日常生活を送られている方々に対して、ガイドヘルパーや介護保険のヘルパーなどの福祉サービス以外の、生活の中でのちょっとした困りごとを支援することを目的に行う。

また、そのような場として、市内に「ライトハウス」があるが、所在地が北区のため、気軽に支援を受けられる場が身近に求められていた。

③活動日時及び場所・利用料

- ・活動日時：毎月第2火曜日の午前10時から午後4時まで。
- ・活動場所：やすらぎ・ふれあい館ボランティアルーム
- ・利用料：無料

④活動内容

生活の中でのちょっとした困りごと、例えば、ボタン付けや簡単な裁縫・縫製仕事など、そのほか読み書きサービスや新聞広告の音読など、相談者の希望に添えるようボランティアのできる範囲で支援を行っている。

また、居心地の良い「居場所」として楽しい語らいの場としても利用してもらっている。

さらに、毎月第4火曜日の2時から、ボランティアミーティングを開催し、活動日の支援内容の共有を行っている。前例がないことが多いので、調整の必要なことは、全員でルールなども話し合いながら手作りの温かな活動を目指している。

⑤活動の様子

ボランティアで事前に担当できる時間帯を調整し、活動時間中は必ずボランティアがいるようにしている。位階当たりの平均利用者数は、4～5名が訪れる。

Aさんはご自身のつくった俳句を投稿するため、文字にしてほしいと毎回欠かさず訪れられる。Bさんは洋服の裁断などに。Cさんは衣類の補修に。皆、自身の依頼ごとだけでなく、楽しくおしゃべりして帰られる。皆で一緒に昼食に行くこともある。



3. スキップの活動の課題

①ボランティアと利用者の高齢化

②福祉施策の狭間で…

③大規模自然災害発生時の対応